

大規模災害時に 国立8大学連携

相互支援へ協定

名古屋大や岐阜大、静岡大など東海地方の8国立大は、被害が広域に及ぶ南海トラフ巨大地震やその他の風水害などの大規模災害を想定し、相互に教職員を派遣したり資機材や研究室を提供したりする連携協定を結んだ。災害時に被害を受けた大学に建物の危険度

を判定する職員を派遣するほか、教育・研究活動を継続するための物資や機材、スペースを提供する。平常時には実験室などが被災しても安全に保つための講習会や、お互いに連絡を取り合う訓練も行う予定。

名古屋大によると、災害を想定した国立大間の協定は東北や近畿、中国・四国、九州の4ブロックでそれぞれ締結されている。

東京都内で開かれた締結式で名古屋大の松尾清一学長は「協定の締結は地域への貢献にもつながり意味は大きい」と述べた。